



東海農政局長年頭所感

疏通千里・利澤萬世 (これからの農政の推進にあたって)

新年おめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年7月5日の着任後、まずは明治用水頭首工の復旧工事現場に赴きましたが、当時は出水期で工事は中断している時期であることから、昨年12月、改めて工事の進捗を把握するため、明治用水頭首工の復旧工事現場と明治本流シールド工事をつぶさに確認してきました。その際、安城市にある明治用水土地改良区と隣接する「水のかんきょう学習館」で明治用水の歴史を振り返りました。

ご存じの方も多いと思いますが、明治用水は先人達により水の乏しい碧海台地に通水することを目的として江戸期から構想され、明治13年に完成をみた我が国最古の本格的な用水です。

頭首工から少し下った場所、旧東海道と明治用水（現在は暗渠化）との交差点の角に、明治17年に建立された明治川神社が静かに佇んでおり、神社前の記念碑には用水の竣工式に臨んだ内務卿松方正義の書による、表題の「疏通千里・利澤萬世」（そつうせんり・りたくばんせい）が刻まれており、当時の県民の疏水に対する熱い想いが伝わってきます。

その後の愛知県の農業の発展は言わずもがなで、現在の安城市に農事試験場（現：愛知県農業総合試験場）が移転。「日本デンマーク」と呼ばれ、昭和前期は用水の受益面積は1万ヘクタールにまで達し、我が国を代表する農業地域となりました。この頃、近くの豊橋市では「温室栽培」の開発・普及が本格的に始まり、我が国のスタンダードとして全国に普及していったのも施設園芸にかかわる人たちの間では有名な話題です。

現在、明治用水の農業関係の受益面積は5千ヘクタール強まで減少しています。農地は転用され、受益地内の宅地化・商業施設化・工業用地化も進んでおり、三十数年前、私が学生時代当地を訪問した頃の風景とも一変しています。産業構造の変化もすさまじいですが、「持続的な食料の供給を我が国の農地で最大限確保する」ための国民的な盛り上がりは、まだまだ、と感じます。ここまで明治用水の話題を述べましたが、農政局管内の岐阜県、愛知県、三重県内の食と農、くらしを支える用水をつくりあげた先人はこの状況を見てどう思うのか、心の中で自問しています。

食料・農業・農村基本法の改正ののち、現在は基本計画の策定に向け検討を進めていますが、国民全体として、我が国の農業の将来をどこまで「本気で」考えるのか、試される年と思います。国民一人一人のマインドが変わることが必要と考えます。このことに向き合いながら、前向きな気持ちで、本年も業務を進めてまいります。

皆さんにとって新年が幸ある年となるよう、祈念いたします。本年もよろしくお願いいたします。

令和7年1月
東海農政局長 秋葉 一彦



愛知県大府市がオーガニックビレッジ宣言を行いました

農林水産省は、有機農業の生産から消費まで一貫し、地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）の創出に取り組む市町村を支援しています。

有機農業の産地化を進める愛知県大府市は、令和6年度からみどりの食料システム戦略推進交付金を活用した取り組みを実施し、令和6年11月22日に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

大府市は、農業分野における環境負荷の低減や食料安全保障の強化などを図るため、官民が連携した有機農業の取り組みを推進しています。東海農政局は、大府市の取り組みを引き続き支援するとともに、この宣言を契機として、大府市から有機農業の輪が広がることを期待しています。



大府市オーガニックビレッジ宣言 (要約)

大府市は、愛知用水による豊かな恵みのもと、「都市と自然環境が調和したまち」です。「サステナブル健康都市」として、地名の「大府」と「オーガニック」を掛け合わせた「おおぶニック」の愛称で有機農業に取り組んでいます。

市民団体と農家が協働でスタートした有機農業による米づくりをきっかけとして、生産者団体「おおぶニックのWA」を中心に生産者と市民団体、市民、行政の連携により、有機農業の輪が広がってきました。

こどもたちの輝く未来に美しい地球環境を引き継いでいくためにも、地域の人財と限りある資源を活用した官民連携での有機農業の取組を加速することを誓い、ここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。



オーガニックビレッジ宣言式での記念撮影の様子

重点的に取り組む事項

有機農業による米の生産拡大 と学校給食での提供拡大



有機農業担い手育成講座の開設



有機農業の担い手育成や 情報発信のための拠点づくり

有機農業により生産された 米のブランド化

大府市の宣言の
詳細はこちら



「おおぶニック学校給食米」として販売し、
有機農産物の販路拡大を目指す

5年後（2029年）に目指す目標

- ①有機農業による作付面積（水稻）
1.4ha → 14ha（10倍に拡大）
- ②有機農業者数（水稻＋野菜）
6人 → 20人（年1名以上の増）



お問合せ先 生産部 環境・技術課 TEL 052-746-1313

「東海地域有機農業フォーラム2024～オーガニックビレッジでひろがる有機のまちづくり～」の参加者を募集しています

東海農政局は、「東海地域有機農業フォーラム2024～オーガニックビレッジでひろがる有機のまちづくり～」を開催します。

フォーラムでは、オーガニックビレッジをきっかけとした有機農業のさらなる取組拡大につなげるため、みどりの食料システム戦略や有機農業の現状、オーガニックビレッジでまちづくりを進める東海3県（岐阜・愛知・三重）の事例紹介等を行い、持続可能な農業への理解を深める機会を提供します。

東海地域 有機農業フォーラム 2024

～オーガニックビレッジでひろがる有機のまちづくり～

開催日時：2月12日（水）

13:30～16:30（受付13:00～）

場所：愛知学院大学 名城公園キャンパス
アリスタワー 2階 7204大教室
地下鉄名城線「名城公園」駅 徒歩約3分

募集人数：150名（参加費無料）

応募締切：1月31日（金）



お問合せ先 生産部 環境・技術課
TEL 052-746-1313

申込はこちら

【プログラム】

基調講演

秋葉 一彦（東海農政局長）
「みどりの食料システム戦略の実現に向けて（仮）」

事例紹介

オーガニックビレッジ取組事例の紹介
岐阜県白川町、愛知県東郷町、三重県尾鷲市

会場セッション

事例発表者、あいち有機農業推進ネットワーク代表
吉野 隆子氏、東海農政局長によるトークセッション
会場参加者からの質疑応答

有機農家同士のネットワーキングを兼ねた種子交換会を同時開催

主催：東海農政局、あいち有機農業推進ネットワーク

「ノウフク・アワード2024」受賞団体が決定しました

農林水産省は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を「ノウフク・アワード」として表彰し、全国への普及を推進しています。

令和6年度に実施した「ノウフク・アワード2024」は、全国から応募のあった205団体の中から、22団体が受賞し、東海農政局管内（岐阜県・愛知県・三重県）からは4団体が受賞しました。

準グランプリ 「地域を耕す」部門

株式会社コトモファーム (愛知県犬山市)

米の生産・加工・販売を一貫して行うとともに、地域内外の企業や障害者就労施設等と連携したバウムクーヘンの開発・販売等を通じて、多様性のある働く場を創出している。

- 農福連携を通じて地域の農業者との交流が深まり、地域の要望に応える形で荒廃農地を再生し、農地面積を拡大。
- 施設外就労で受け入れていた障害者のうち、2名を正社員として雇用。



収穫の様子



スマート農業体験イベント

優秀賞

株式会社JAぎふはっぴいまるけ (岐阜県岐阜市)

JAぎふの特例子会社として、荒廃農地での農業再生に向けた取り組み、ユニバーサル体験農園の実施、地元企業と連携した特産品の開発などで地域に貢献。

- 障害者向け体験農園の運営や特別支援学校の実習生受け入れを行い、地域の農業と福祉を結ぶ取り組みを推進。
- 売上高は1,980万円（令和2年）から5,450万円（令和5年）に増加。



「まるけふあ〜む」での収穫体験



イベントによる販売

フレッシュ賞

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 (岐阜県岐阜市)

「私たちは、できる！」特別支援学校の子もたちから発信する、夢と希望のオンリーワンの農福連携。

- 岐阜古来の製麺技術を採用したことによる道三麺のPRやイタリア野菜栽培の発信等、地域活性化に貢献。
- ソバ栽培を通して、障害を持つ子どもたちの笑顔がこぼれる素敵な農業時間が創出されている。
- オンリーワンのストーリーを持つルビー色のソバ栽培を通して、子どもたちが主体的に農業を行い、地域の新しい担い手となっている。



収穫のひとつ



ルビー色のソバ、イタリアンなす

チャレンジ賞

株式会社ケアプロフェッショナル (三重県伊勢市)

史上初！伊勢市でワイン専用ぶどうを栽培、そしてワイン醸造所を建設しワイン作りを開始。障害者と健常者が支え合いながら地域でイキイキ働けるノウフク連携福祉ワイン現場を創業。

- 1人当たり月平均工賃額は12,000円（令和3年）から18,000円（令和5年）に増加。
- 150a（令和6年度）の荒廃農地を有効活用し、ワインぶどうという新たな農産物を栽培する挑戦は、地域の農林水産業の刺激となり発展に寄与。



ぶどう栽培のアドバイスを
受けている様子



自社製品
(干し芋、ジャム、ワイン)



みんなで
耕そう

ノウフク

「ノウフク・アワード2024」受賞22団体の概要はこちら
<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/241121.html>



「令和6年度 全国優良経営体表彰」受賞者が決定しました

農林水産省と全国担い手育成総合支援協議会は、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰する「全国優良経営体表彰」を実施しています。

令和6年度は、東海農政局管内（岐阜県・愛知県・三重県）から「株式会社アグリスト」（岐阜県高山市）代表 中野 俊彦氏が、最も優秀な経営体に与えられる農林水産大臣賞（経営改善部門）を受賞しました。

農林水産大臣賞（経営改善部門）

株式会社アグリスト（岐阜県高山市）

代表 中野 俊彦（なかの としひこ）氏



株式会社アグリスト
代表 中野 俊彦 氏

【経営規模】

5.2ha（トマト2.8ha、水稻2.0ha、イチゴ苗0.2ha、
スナップエンドウ0.2ha）
シイタケ2.2万ブロック

株式会社アグリストは、夏秋トマトの栽培面積、生産量ともに飛騨地域でトップクラスを誇ります。代表の中野氏は、民間企業での勤務を経て平成14年に親元就農し、規模拡大を目指して平成28年に法人化しました。

- 法人設立当初から労働環境の整備に努め、柔軟な勤務態勢や休憩室の設置、技能実習生への社宅提供などに取り組んでいる。
- 地域の夏秋トマトの収量が秋季に低下することから、当時出荷組合の部会長を務めていた中野氏が新品種への切り替えを主導し、市全体の単収向上に貢献した。
- 冬期の菌床シイタケ生産や、もち米加工（花もち）のほか、夏季冷涼な気候を生かしたイチゴ苗の生産、トマト前作のスナップエンドウ生産など、従業員を周年雇用できる生産体制を構築し、販売額の増加と生産性の向上を図った。

以上の取り組みが高く評価されました。

全国の実績者の詳細はこちら



お問合せ先 経営・事業支援部 担い手育成課 TEL 052-715-5191

あいちウィーク コラボイベント キッズプロジェクト「秋まふり@東海農政局」を開催しました

東海農政局は、11月22日、あいちウィークの期間中に合わせて、親子向けキッズプロジェクト「秋まふり@東海農政局」を開催し、61名の親子が参加しました。

子どもたちは、稲わらを使ったしめ縄リースづくり体験や、ラディッシュを使った苗植え体験をして楽しみました。



ラディッシュの苗植え体験



しめ縄リースづくり体験



参加者のみなさんが
作ったしめ縄リース



来年度の親子向けイベント
「夏まふり@東海農政局」も計画中です！
Webサイトに情報発信していくので、
チェックしてくださいね

消費者の部屋
キッズプロジェクトのページはこちら



お問合せ先 消費・安全部 消費生活課 TEL 052-223-4651

<訂正とおわび> 12月号1面上段「農産物の環境負荷低減の取り組みの『見える化』を紹介します」で、【みえるらべる農産物のPR】の写真の団体名に誤りがありました。正しくは「岡崎市ぬかたブランド協議会」「株式会社山田農園」です。おわびして訂正します。

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<Webサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」
Webサイト



メールマガジンの
登録はこちら